



	English	中文	交通アクセス・地図	お問い合わせ	サイトマップ	サイト内検索
	受験生の方	広大へ留学希望の方	一般・地域の方	企業の方	卒業生の方	在学生・保護者の方

大学案内

入試情報

教育・学生生活

研究

社会連携

留学・国際交流

学部・大学院等

研究所・施設等

広報・報道

採用情報

校友会・同窓会

支援財団・基金

図書館・博物館等

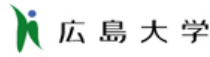
大学病院

附属学校

[トップページ](#) > [広報・報道](#) > [報道発表・報道された広島大学](#) > [平成19年1月-12月](#) > 「月の進化モデル」の再考を促す重要な発見

「月の進化モデル」の再考を促す重要な発見

NEWS RELEASE



広島大学学長室広報グループ
〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2
TEL:082-424-6017 FAX:082-424-6040
E-mail:koho@office.hiroshima-u.ac.jp
(※@は半角に置き換え送信してください。)

平成19年12月5日

記者会見のご案内

「月の進化モデル」の再考を促す重要な発見

～月の隕石から、月の誕生から間もない約43億5千万年前の鉱物を発見～

広島大学大学院理学研究科の寺田健太郎准教授が、アフリカのカラハリ砂漠で見つかった月の隕石に、月の誕生から間もない約43億5千万年前の火山活動でつくられた鉱物が含まれていることを、新たな年代分析手法で突き止め、12月6日発行の英国科学雑誌ネイチャーに発表します。

地球から見た時に黒く見える「海」と呼ばれる平地は、これまでアポロ計画などの月探査計画で地球に持ち帰られた「海」の岩石の年代分析から、29～39億年前に形成されたというのが定説でした。

これに対し、広島グループ・寺田健太郎准教授は、1999年にアフリカのボツワナの砂漠で発見された「カラハリ009」月隕石に着目。広島大学の年代分析装置SHRIMP(シュリンプ)で年代分析を行った所、約43億5千万年という月の玄武岩では最古の年代を示す鉱物を発見しました。この成果は、現行の「月の進化モデル」の再考を促す極めて重要な知見となります。

つきましては、下記のとおり記者会見を開催し、詳細をご説明いたします。ご多忙とは存じますが、是非、ご参加いただきたくご案内申し上げます。

なお、本件についての報道解禁は、日本時間12月6日午前3時以降となりますので、ご協力方よろしく願います。

記

日時 平成19年12月5日(水) 19時～19時30分

場所 広島大学東広島キャンパス 本部棟 4階 会議室

出席者 広島大学大学院理学研究科 准教授 寺田健太郎

【お問い合わせ先】

広島大学学長室広報グループ 担当:村上
TEL:082-424-6017
FAX:082-424-6040

広大公式アカウント一覧

Twitter

Facebook
(日本語版)

Facebook
(英語版)

YouTube

行事カレンダー

ストリートビュー

キャンパスカメラ

学内ポータル

[> 広島大学公式ウェブサイトについて\(サイトポリシー\)](#) [> プライバシーポリシー](#)

Copyright(C) 2003-2014 広島大学
* 電話番号・所在地
<編集>: 広島大学広報グループ
✉ お問い合わせはこちら